2017 年映像情報メディア学会冬季大会

2017 ITE Winter Annual Convention Program

プ ロ グ ラ ム

２０１７年１２月１２日，１３日

12 - 13 Dec. 2017

早稲田大学 西早稲田キャンパス

Waseda University　Nishiwaseda Campus

共催　早稲田大学 国際情報通信研究センター

映像情報メディア学会
２０１７年 冬季大会開催概要

会　期　２０１７年１２月１２日（火），１３日（水）

会　場　早稲田大学（西早稲田キャンパス）

共　催　早稲田大学 国際情報通信研究センター

企画イベント　(1) 5G（高速・大容量，低遅延，多接続）が拓く新たな世界への取り組み
(2) 2016年度各賞受賞企業によるデモ展示
(3) 大学発イノベーションを支える産学共創とベンチャーキャピタル(VC)
(4) AI研究の最先端とその未来
(5) フェロー記念講演
(6) 4K・8K試験放送受信公開デモ

一般講演（応募講演）　１１８件　２１部門

大会参加費

≪講演参加費≫　＊会　　員　８,０００円　　会 員 外　１８,７００円
＊学生会員　３,０００円　　会員外学生　６,０００円
フレッシュパーソン講演（学生）　２,２００円

≪聴講参加費≫　［予稿集付き］

（事前予約）	＊会　　員	７,０００円	会 員 外	１１,０００円
	＊学生会員	１,０００円	会員外学生	２,０００円
（当　　日）	＊会　　員	８,０００円	会 員 外	１２,０００円
	＊学生会員	１,５００円	会員外学生	２,５００円

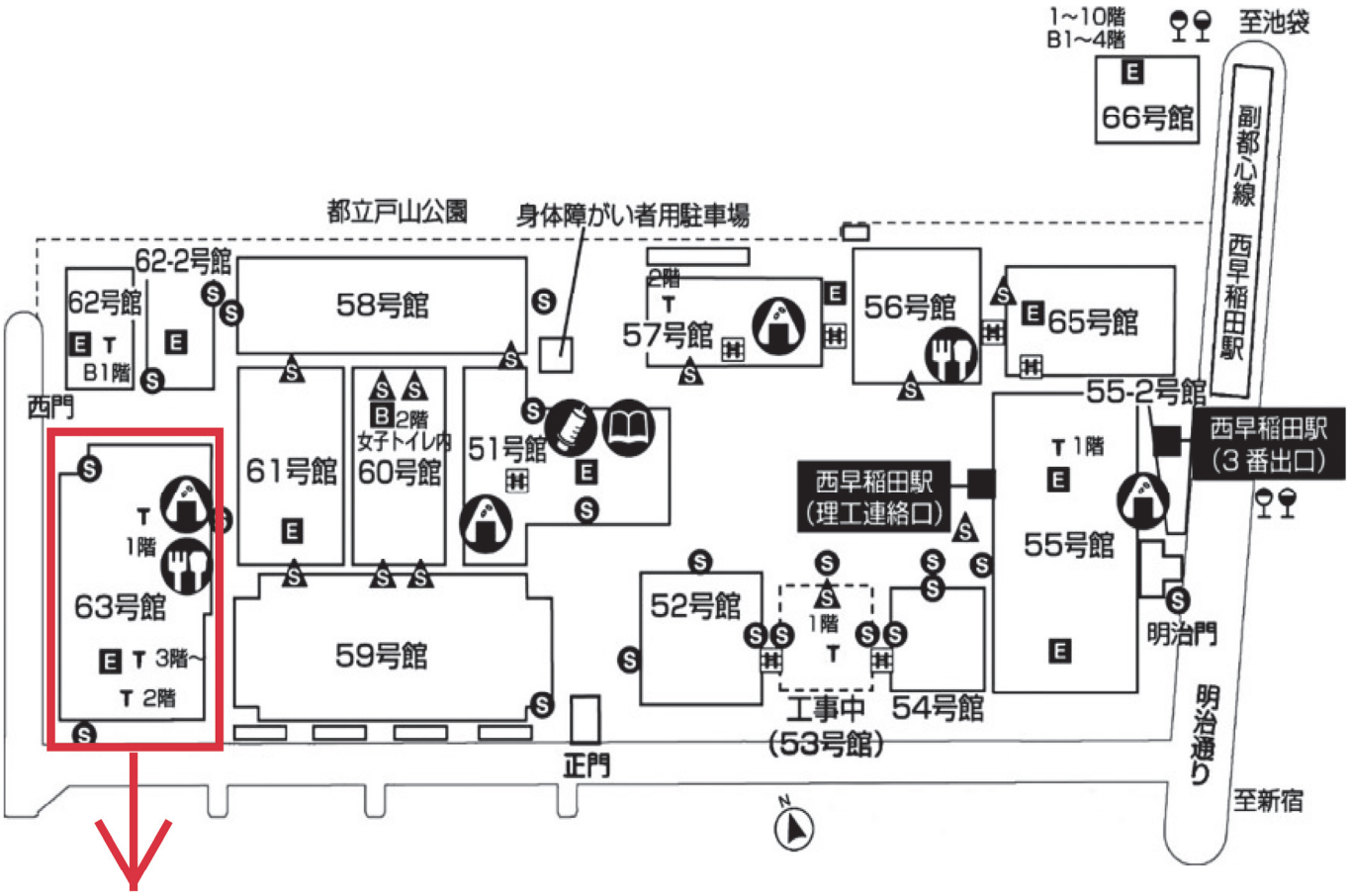
＊電気学会、電子情報通信学会、照明学会、情報処理学会、ＩＥＥＥの個人会員の方は会員価格となります。

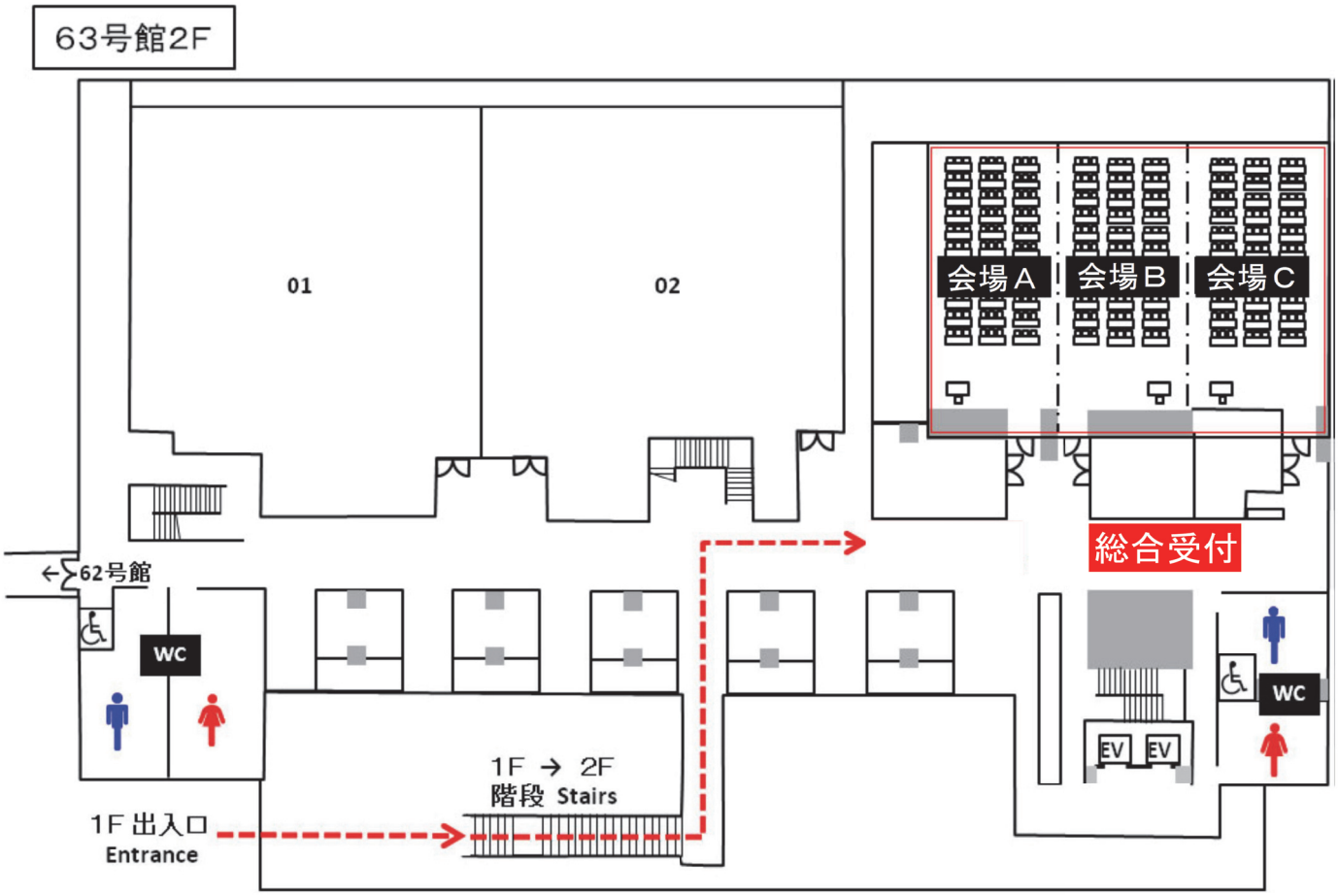
総合受付［西早稲田キャンパス６３号館２階廊下に設置］
大会参加者は、総合受付で署名のうえ、大会プログラム、参加章をお受け取り下さい。
参加章は必ず記名のうえ、首にお下げ下さい。

懇親会　２０１７年１２月１２日（火）１８時３０分 ～
早稲田大学 西早稲田キャンパス　６３号館１階　ロームスクエア
会　費　一般３,０００円　学生１,０００円　　受　付　懇親会会場入口で行います。

実行委員会事務局　映像情報メディア学会事務局
〒105-0011　東京都港区芝公園 3-5-8　機械振興会館403号室
TEL.03-3432-4677　FAX.03-3432-4675　E-mail：gyoji@ite.or.jp

大会期間中連絡先　2017年冬季大会　大会本部　　ＴＥＬ．０９０－４５２９－４７５７


1~10階
B1~4階
至池袋
66号館
副都心線 西早稲田駅
都立戸山公園
身体障がい者用駐車場
62-2号館
62号館
B1階
58号館
2階
57号館
56号館
65号館
55-2号館
西門
61号館
2階
女子トイレ内
60号館
51号館
西早稲田駅
(3番出口)
西早稲田駅
(理工連絡口)
1階
55号館
63号館
3階~
2階
59号館
52号館
1階
明治門
工事中
(53号館)
54号館
明治通り
正門
至新宿


63号館2F
01
02
会場A
会場B
会場C
総合受付
62号館
WC
1F → 2F
階段 Stairs
1F 出入口
Entrance
EV
EV
WC

◎デモ展示，懇親会は１Ｆ

セッション配置

１２月１２日（火）

時間区分	会場A 03 教室(2 階)	会場B 04 教室(2 階)	会場C 05 教室(2 階)
1	[11A] 9:00-10:00 映像表現&CG:VR・AR (p.3)	[11B] 9:15-10:15 立体映像技術（p.4）	[11C] 9:15-10:15 ヒューマンインフォメーション1（p.4）
2	[12A] 10:30-11:45 映像表現&CG:CG・HDR・質感（p.4）	[12B] 10:30-12:00 メディア工学:コンピュータビジョン（光学的解析・空間認識・CV 基礎）(p.4)	[12C] 10:30-12:00 放送現業（p.4）
昼休み			
3	[13A] 13:00-14:45 メディア工学:符号化・符号化応用・配信（p.5）	[13B] 13:00-14:45 メディア工学:パターン認識（機械学習・深層学習・AI）（p.5）	[13C] 13:00-14:30 無線・光伝送＆フェロー記念講演（p.5）
4	[特別企画1] 15:30-18:00 5G（高速・大容量，低遅延，多接続）が拓く新たな世界への取り組み (p.6)	[14B] 14:50-16:20 メディア工学:画像処理とビッグデータ	[14C] 14:45-16:15 放送方式1
5		[15B] 16:30-18:15 メディア工学:コンピュータビジョンとパターン認識の融合・システム（p.6）	[15C] 16:30-18:00 放送方式2（p.6）
6	[懇親会] 18:30-19:50　会場:ロームスクエア（1 階） 会費　一般 3,000 円　　学生 1,000 円 受付　懇親会会場入口		

１２月１３日（水）

時間区分	会場A 03 教室(2 階)	会場B 04 教室(2 階)	会場C 05 教室(2 階)	
1	[21A] 9:00-10:15 映像表現&CG：計測・校正・推定（p.7）	- - -	[21C] 9:00-10:15 ヒューマンインフォメーション2（p.7）	
2	[22A] 10:30-12:30 メディア工学：感性情報処理・コンテンツ生成（p.8）	[22B] 10:30-12:30 メディア工学：パターン認識（人・顔）（p.8）	[22C] 10:30-12:00 センシング（p.8） ≪ 招待講演あり♪ ≫	[特別企画2]（公開） 11:30-14:30 会場：情報ギャラリー（1 階） 2016 年度各賞受賞企業によるデモ展示 （p.9）
昼休み				
3	[特別企画3] 13:15-17:15 大学発イノベーションを支える産学共創とベンチャーキャピタル（VC） （p.9, 10）	[特別企画4] 13:30-18:00 AI 研究の最先端とその未来 （p.10, 11）	[23C] 13:00-14:15 ヒューマンインフォメーション3（p.11）	
4			[24C] 14:30-16:30 ストレージ＆情報ディスプレイ（p.12）	
5			[25C] 16:45-18:15 スポーツ情報処理（p.12） ≪ 招待講演あり♪ ≫	

★4K・8K 試験放送受信公開デモ　63 号館 1 階情報ギャラリー（大会期間中）

詳細プログラム

1 件 15 分（講演 10 分＋質疑応答 4 分＋交代および次の発表紹介 1 分）

○印は登壇者

会場	日時	セッション名［セッション番号］	座長

12 日(火) 1 限目

会場A	12/12(火) 09:00-10:00	映像表現&CG：VR・AR［11A］	座長：盛岡寛史（NHK）
11A-1	DR と AR を用いたインテリアシミュレーションシステムにおける陰影処理の検討 ○増田拓海・眞鍋佳嗣・矢田紀子（千葉大）		
11A-2	VR 訓練における AR を用いた第三者視点の提供手法の検討 ○島田一成・眞鍋佳嗣・矢田紀子（千葉大）		
11A-3	AR ベース遠隔会議システムにおける現実感の向上の検討 ○萩野谷隼一・眞鍋佳嗣・矢田紀子（千葉大）		
11A-4	VR を用いた空間探索実験の検討 ○大坂間俊汰・眞鍋佳嗣・牛谷智一・矢田紀子（千葉大）		

会場B	12/12(火) **09:15-10:15**	**立体映像技術［11B］**	座長：高田英明（NTT）
11B-1	点光源アレーを用いたインテグラル立体表示の解像度特性解析と表示性能向上 ○渡邉隼人・河北真宏・岡市直人・佐々木久幸・三科智之（NHK）		
11B-2	4 時分割斜めパララックスバリア式裸眼立体表示の視域拡大　（予稿は 12 月 6 日(水)公開となります） ○林下歩樹・掛谷英紀（筑波大）		
11B-3	超多眼ハイビジョン裸眼立体表示の実現　（予稿は 12 月 6 日(水)公開となります） ○掛谷英紀（筑波大）		
11B-4	超多眼 Near-eye ディスプレイの提案 ○上野高明・高木康博（東京農工大）		

会場C	12/12(火) **09:15-10:15**	**ヒューマンインフォメーション1［11C］**	座長：松村誠明（NTT）
11C-1	キネクトセンサーによる映像視聴時の弱表情検出についての一検討 ○サイモン クリピングデル・望月貴裕・佐野雅規（NHK），菅沼　睦・亀山　渉（早大）		
11C-2	背景除去によるブランド品の真贋検査精度向上に関する研究 ○井上　諒・後藤富朗・平野　智（名工大）		
11C-3	日本語と英語の難聴者用映画字幕における非発話情報としての話者情報、音楽情報に関する比較調査 ○福島孝博（追手門学院大）		
11C-4	スポーツ実況を補足する自動解説発話の分類 ○佐藤庄衛・住吉英樹・今井　篤・山内結子・清山信正・清水俊宏・金子浩之・熊野　正・宮﨑太郎・栗原　清・一木麻乃（NHK）		

12 日(火) 2 限目

会場A	12/12(火) **10:30-11:45**	**映像表現&CG:CG・HDR・質感［12A］**	座長：森谷友昭（東京電機大）
12A-1	ぬいぐるみの 3D データからの服の型紙の生成手法の検討 ○谷水美里・眞鍋佳嗣・矢田紀子（千葉大）		
12A-2	商業アニメコンテンツ制作に適した輪郭線の高速レンダリング手法 ○川島基展（ももワークス），新谷幹夫（東邦大/UEI リサーチ）		
12A-3	HDR 分光ステレオ画像の計測と表示システムの検討 ○鶴田貴之・眞鍋佳嗣・矢田紀子（千葉大）		
12A-4	広色域・高ダイナミックレンジによる画像印象強化の評価 ○大山祐太朗・鹿喰善明（明治大）		
12A-5	手持ちカメラによる大型絵画の光沢情報取得の検討 ○高塚麻耶・矢田紀子・眞鍋佳嗣（千葉大）		

会場B	12/12(火) **10:30-12:00**	**メディア工学:コンピュータビジョン（光学的解析・空間認識・CV 基礎）［12B］**	座長：八尾泰洋（NTT）
12B-1	連続性を考慮した三刺激値からの分光反射率の推定 ○敷田麻依・井上光平・原　健二・浦浜喜一（九大）		
12B-2	灰色仮説成立判定に基づく複数光源下画像からの照明光色推定法の一考察 ○川村春美（サレジオ高専）		
12B-3	折り目のある印刷物の撮影画像における幾何学的歪みと反射成分の補正手法の提案 ○有賀　傑・眞鍋佳嗣・矢田紀子（千葉大）		
12B-4	物理ベースレンダリング画像を用いた機械学習による色の恒常性の実現 ○平林　司・矢田紀子・眞鍋佳嗣（千葉大）		
12B-5	リアルタイム環境再構成と 3D 物体認識手法の検討 ○沈　陽平・眞鍋佳嗣・矢田紀子（千葉大）		
12B-6	多重解像度処理における領域の対応関係に基づいたオプティカルフロー推定のデータ項の画素適応重み制御 ○今関智樹・亀田裕介・石川知一・松田一朗・伊東　晋（東京理科大）		

会場C	12/12(火) **10:30-12:00**	**放送現業［12C］**	座長：甲斐　創（日本テレビ）
12C-1	金属塩析出型調光素子の制御技術の開発 ○菊地幸大・宮川和典・安江俊夫・島本　洋（NHK），持塚多久男・牧田政雄（村上開明堂）		
12C-2	ライブ番組における複数飛翔体の軌跡描画システムの開発 ○盛岡寛史・横澤真介・三ッ峰秀樹（NHK）		
12C-3	4K 画質評価装置のアルゴリズム有効性検証 ○藤原将展・蓑毛雄吾・甲斐　創（日本テレビ）		
12C-4	AES3 インターフェースを用いた 120Hz タイムコード信号伝送方式の開発 ○荒井敦志・小出大一・瀧口吉郎（NHK）		
12C-5	22.2ch 音響のダウンミックスにおける音質補正手法の検討 ○杉本岳大・小森智康（NHK）		
12C-6	音声認識技術による書き起こしインターフェースの検証実験 ○三島　剛・一木麻乃・萩原愛子・伊藤　均・佐藤庄衛（NHK），小林彰夫（NHK-ES）		

12 日(火) 3 限目

会場A	12/12(火) **13:00-14:45**	**メディア工学:符号化・符号化応用・配信［13A］**	座長：谷沢昭行（東芝）
13A-1	次世代動画像符号化方式向けイントラ参照画素強フィルタの主観評価 ○木谷佳隆・河村　圭・内藤　整（KDDI 総合研）		
13A-2	シーンフロー推定に基づく奥行きマップ符号化のための動き・奥行き補償 ○笠井翔太・亀田裕介・石川知一・松田一朗・伊東　晋（東京理科大）		
13A-3	陽に記述された画像生成モデルに対するベイズ基準のもと最適な可逆符号化 ○中原悠太・松嶋敏泰（早大）		
13A-4	画像間の変化点検出ソフトウェア ○三反崎暁経・早瀬和也・清水　淳（NTT），日置和之（NTT 空間情報）		
13A-5	符号化データを利用した衛星画像間の変化推定方法に関する検討 ○早瀬和也・三反崎暁経・清水　淳（NTT），日置和之（NTT 空間情報）		
13A-6	360 度映像配信における視野領域を考慮した適応レート制御の性能評価 ○篠原裕矢・金井謙治・甲藤二郎（早大）		
13A-7	OpenFlow の帯域制御を活用した高品質な DASH 配信手法の性能評価 ○長島達哉・金井謙治・甲藤二郎（早大）		

会場B	12/12(火) **13:00-14:45**	**メディア工学:パターン認識(機械学習・深層学習・AI)［13B］**	座長：村崎和彦（NTT）
13B-1	多段ニューラルネットワークを用いた動物の品種識別 ○渡部宏樹・渡辺　裕（早大）		
13B-2	ペアネットワークを用いた CNN の畳み込み層の最適化手法の提案 ○木之下滉大郎・矢田紀子・眞鍋佳嗣（千葉大）		
13B-3	A Statistical Study of Late Fusion Strategy in Two-stream ConvNets for Human Action Recognition ○Jianfeng XU・Kazuyuki TASAKA・Hiromasa YANAGIHARA（KDDI Research）		
13B-4	時間と分散表現を考慮した深層特徴に基づく食事画像認識 ○郁　青・安沢昌志・天野宗佑・山崎俊彦・相澤清晴（東大），小川　誠（foo.log）		
13B-5	主観評価実験に基づく顔画像のグッドデータを用いた表情推定システムの検証 ○高梨那之・平井経太・堀内隆彦（千葉大）		
13B-6	Weather data estimation by sensitive features selection ○Tin Nilar Lin・Hiroshi Watanabe（Waseda Univ.）		
13B-7	ニュース制作のための原稿作成支援システム ○後藤　淳・牧野仁宣・武井友香・宮崎太郎・住吉英樹（NHK）		

会場C	12/12(火) **13:00-14:30**	**無線・光伝送＆フェロー記念講演［13C］**	座長：渡辺　滋（日本電業工作）
13C-1	ドローンを活用した放送波測定実験 ○栗山和久（関西テレビ）		
13C-2	プリアンブルにおける受信電力判定を用いた周波数センシング方式の検討 -その 2- ○須藤浩章・小坂和裕・金本英樹・下条則之・安永　毅・上杉　充（パナソニック）		
13C-3	特性関数法を用いた複数ディジタル変調波に対する捕捉効果の解析 ○高橋　賢（広島市大）		
13C-4	13:45-14:30 **［フェロー記念講演］** 映像情報メディア学会には、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術および産業分野の発展・普及・振興あるいは本学会事業の発展に対して、特に貢献が顕著と認められる会員に高い尊敬と深い感謝の意を表するための制度として、フェロー会員の認定制度があります。本企画では、新たにフェローの称号が贈呈されました生岩先生を講師としてお招きし、映像情報メディア技術の発展に寄与した業績をご講演いただきます。 フェロー受賞にあたって（ ～よきメンターとの出会い～）（予稿なし） ○生岩量久（広島市立大学　名誉教授） 私が開発・研究を続けることができたのは 2 人のメンターのおかげです。最初のメンターは、努力を続けることの大切さを教えてくれました。この後、次の職場で二人目のメンターに出合い、博士号（MOSFET 式電力増幅器）を取得することができました。もう一つの出来事は、「送信機だけではなく他分野に手を広げておかないと定年までもちませんよ」というある先輩の一言でした。確かに花形分野の寿命は短いので、光伝送技術と地デジに関する開発テーマに取り組みました。大学に移れたのは、光や地デジで成果を上げることができたおかげだと考えています。本講演が、若い方々の参考になれば幸いです。		

12 日(火) 4 限目

会場A	12/12(火) **15:30-18:00**	**［特別企画 1］5G(高速・大容量，低遅延，多接続)が拓く新たな世界への取り組み**

次世代の移動通信システムとして、高速・大容量化、超多数端末接続、超低遅延、超高信頼性などの特徴を持つ第 5 世代移動通信システム（5G）の検討が世界的に進められている．
日本においても，各種の研究団体、学会、移動通信関係各社で 5G のユースケースや要求条件，技術研究が行われている．
本シンポジウムでは，携帯電話 3 社の第一人者をお招きし，5G が拓く新たな世界への取り組みや展望について講演頂き，映像情報メディア応用の観点など議論を行う．

司会：柳原広昌（KDDI 総合研究所）

15:30～16:20
S1-1　5G による豊かな未来の創造と早期実現に向けたドコモの取り組み
　　奥村幸彦 氏（㈱NTT ドコモ 先進技術研究所 5G 推進室 5G 方式研究グループリーダ 主幹研究員）

第 5 世代移動通信システム 5G は，既存のシステムをさらに発展させた超高速・大容量，多数接続，超低遅延などの特徴を持つ次世代の移動通信システムであり，国内外において，2020 年頃の 5G の実現に向けた研究開発と国際標準化貢献に関する取り組み等が活発に行われている．本講演では，5G によって創出される未来のアプリケーション・サービスのイメージと無線アクセスへの要求条件，ドコモが提案する 5G 無線アクセスのコンセプトと高周波数帯を用いる無線伝送技術等を述べるとともに，それらの検証実験と映像情報メディア応用を含む新しいアプリケーション・サービスを評価するシステムトライアルなど，5G の実現に向けたドコモの最新の取り組みを述べる．

16:20～17:10
S1-2　5G ユースケースとソフトバンクの取り組み
　　吉野　仁 氏（ソフトバンクモバイル㈱ テクノロジーユニット 技術戦略統括 先端技術開発室 先端技術研究部 担当部長）

5G においては、従来からのモバイルブロードバンド通信に加えて、多数同時接続通信および高信頼低遅延通信のための無線能力の拡張が行われている。これらは移動通信事業者にとって新領域であり、5G の利用が想定される他産業のユーザー(Vertical sector)との協業によるユースケースの検討が重要である。ソフトバンクでもトラックの隊列走行への 5G の応用などパートナー企業との共同実証実験を進めている。本講演ではまず 5G の無線能力とそのユースケースについて概観する。次に、ソフトバンクの取り組みについて具体的に紹介する。

17:10～18:00
S1-3　5G の可能性と展望 KDDI の取組み
　　酒井清一郎 氏（KDDI㈱ 技術統括本部 モバイル技術本部 次世代ネットワーク開発部 マネージャ）

次世代のモバイルネットワーク（5G）の展望とそれに向けた取組みについて紹介する。
先ずこれまでのモバイルネットワークの進化と標準化状況を概説する。そして、5G に求められる機能要件や、それらの実現に向けた主要技術に触れる。更に、KDDI の 5G ビジョンと、その実現に向けた 5G に関する KDDI の取組についても述べる。

会場B	12/12(火) **14:50-16:20**	**メディア工学：画像処理とビッグデータ［14B］**	座長：塩寺太一郎（東芝）
14B-1	シャッター振動計測のための画像処理法の検討 ○廣田直弥・西　一樹（電通大）		
14B-2	画像の方向性を考慮した超解像処理技術 ○矢野仁愛・梅田聖也・渡辺　裕（早大），猪飼知宏・中條　健・伊藤典男（シャープ）		
14B-3	肌色検出を用いた顔画像超解像処理の性能改善に関する研究 ○加納圭悟・後藤富朗・平野　智（名工大）		
14B-4	MR 圧縮センシングにおける画像再構成アルゴリズムの検討 ○松本知之・伊藤聡志（宇都宮大）		
14B-5	サーモ画像を用いた太陽光パネル故障の自動検知に関する一検討 ○宮澤健人・鈴木聡志・早瀬和也・三反崎暁経・清水　淳（NTT）		
14B-6	空間情報データの画像表現に基づくインタラクティブ可視化システム ○北原正樹・仆　小軍・清水　淳（NTT）		

会場C	12/12(火) **14:45-16:15**	**放送方式1［14C］**	座長：藤田欣裕（愛媛大）
14C-1	MC-CDMC 方式を用いた衛星伝送方式 ○野辺悠弥・中村　聡・伊藤紘二・伊丹　誠（東京理科大）		
14C-2	次世代地上デジタル放送における移動受信特性の評価 ○中村　聡・布施卓哉・大坪弘明・伊丹　誠（東京理科大）		
14C-3	次世代地上放送暫定仕様における部分受信の評価 ○宮坂宏明・竹内知明・中村円香・土田健一（NHK）		
14C-4	次世代地上放送における符号化効率向上のための帯域制限装置の一検討 ○松尾康孝・井口和久・神田菊文（NHK）		
14C-5	高画質リアルタイム 8K HEVC エンコーダシステムの開発 ○中村　健・小林大祐・中島靖之・大西隆之・岩崎裕江・清水　淳（NTT）		
14C-6	低遅延・帯域制限オーディオコーデック装置の音質評価 ○長谷川馨亮・野口賢一・森住俊美・中嶋淳一・小野　朗・杉浦亮介・鎌本　優・守谷健弘（NTT）， 小田秀朗・川島　修（エフエム東京）		

12 日(火) 5 限目

会場A	12/12(火) **15:30-18:00**	**［特別企画 1］5G(高速・大容量，低遅延，多接続)が拓く新たな世界への取り組み**
詳細は p.6 をご覧ください. .		

会場B	12/12(火) **16:30-18:15**	**メディア工学：コンピュータビジョンとパターン認識の融合・システム［15B］**	座長：新井啓之（日本工大）
15B-1	1 枚の人物集合写真による疑似立体視システム ～ 顔認識による深度推定; スーパーピクセルと K-means による領域分割 ～ ○高松　真・中村文香（東京電機大），岩田英三郎（ユニバーサルロボット），石原聖司・長谷川誠（東京電機大）		
15B-2	機械学習を用いた 4K リアルタイム被写体抽出フレームワーク ○柿沼弘員・宮下広夢・外村喜秀・長田秀信・日高浩太（NTT）		
15B-3	kirari! Tracker：LiDAR と深層学習エンジンを用いたリアルタイム特定人物追跡システムの検討 ○石井陽子・徳永徹郎・外村喜秀・日高浩太（NTT）		
15B-4	長時間 PC 操作の疲れをほぐすためのストレッチによる PC 操作システムの検討 ○鈴木和真・牛田啓太（工学院大）		
15B-5	Front View Generation of 2D Skeleton Poses Using Homography Transformation in an Adaptive Window ○Jianfeng XU・Kazuyuki TASAKA・Hiromasa YANAGIHARA（KDDI Research）		
15B-6	画像局所特徴量による三次元立体への付箋貼付方法の提案 ○内田　奏・武澤裕介（東京電機大），岩田英三郎（ユニバーサルロボット），石原聖司・長谷川誠（東京電機大）		
15B-7	局所ビジュアルパターンの抽出に基づく物体の変形に頑健な同一性判定 ○田良島周平・細野峻司・渡邉之人（NTT），黒住隆行（NTT データ），島村　潤・杵渕哲也（NTT）		

会場C	12/12(火) **16:30-18:00**	**放送方式2［15C］**	座長：森住俊美（NTT）
15C-1	4K 対応ハイブリッドキャストを活用した HFC ケーブル網での放送コンテンツ配信 ○河村　圭・木村明夫（KDDI），瀧澤英臣（ネクストウェーブ），澤崎栄治（コミュニティネットワークセンター），村田　実（名古屋テレビ）		
15C-2	メディア統合型配信状況管理システムの提案 ○遠藤大礎・田口周平・竹内真也・藤澤和也・加井謙二郎（NHK）		
15C-3	メディア統合型配信状況管理システムにおける複数事業者サーバ連携モデル ○田口周平・遠藤大礎・竹内真也・藤澤和也・加井謙二郎（NHK）		
15C-4	テキスト多重によるコンテンツ伝送に関する基礎検討 ○安保良祐・藤田欣裕（愛媛大）		
15C-5	音声アシスタント機能を使用したテレビ操作に関する一検討 ○平松和茂・小川展夢・池尾誠哉・藤沢　寛（NHK）		
15C-6	便利な放送：モデルと要求条件 ○小川一人（NHK），田村桜子（NTT），花岡悟一郎（産総研）		

13 日(水) 1 限目

会場A	12/13(水) **9:00-10:15**	**映像表現&CG：計測・校正・推定［21A］**	座長：張　英夏（東京都市大）
21A-1	同心円パターンを用いた内部形状計測のための較正手法の検討 ○米田　航・眞鍋佳嗣・矢田紀子（千葉大）		
21A-2	過不足のない非剛体物体への動的プロジェクションマッピング ○宮崎大希・橋本直己（電通大）		
21A-3	複数台プロジェクタを用いた広域投影における幾何補正精度に関する検討 ○中村友香・橋本直己（電通大）		
21A-4	動的プロジェクションマッピングのための輪郭に基づいた位置姿勢推定の高精度化 ○森久保優輝・橋本直己（電通大）		
21A-5	一視点画像を用いた空間的な人数分布の推定 ○新井士人・服部亮史・宮城惇矢・奥村誠司（三菱電機）		

会場C	12/13(水) **9:00-10:15**	**ヒューマンインフォメーション2［21C］**	座長：磯貝　愛（NTT）
21C-1	眼球運動測定におけるサブピクセル検出の効果 ○魚住敬一郎・矢野澄男（島根大）		
21C-2	Research Challenge of 2D Moving Picture on AR Glasses as a New TV ○Hiroyuki KAWAKITA・Hiroshi FUJISAWA（NHK），Tobias Höllerer（Univ. of California Santa Barbara）		
21C-3	空中ハプティックインターフェースのための空間位置検出方式の検討 ○半田拓也・東真希子・清水俊宏・近藤　悟（NHK）		
21C-4	高齢ドライバの運転評価と安全運転への自覚促進の検討 ○古川知樹・森　裕文・山﨑初夫・山田宗男・中野倫明（名城大）		
21C-5	地名を対象とした手話 CG 口型の構築 ○加藤直人・内田　翼・東真希子・宮﨑太郎・梅田修一・山内結子・住吉英樹（NHK）		

13日(水) 2限目

会場A	12/13(水) 10:30-12:30	メディア工学:感性情報処理・コンテンツ生成［22A］	座長：河村　圭（KDDI）
22A-1	視覚的顕著性マップを用いたエフェクト列選択ツール ○鈴木菜摘・中田洋平（明治大）		
22A-2	運転時特性を考慮した動的顕著性マップ ○牛島郷瑠・中田洋平（明治大）		
22A-3	アパレル製品のテキスタイル画像に対する感性の可視化法 ○宮本明香里・八木菜穂・中田洋平（明治大）		
22A-4	身体への振動付与時の音楽に対する感性評価 ○山﨑凌平・大倉典子（芝浦工大）		
22A-5	仮想物体の把持知覚に対する聴覚刺激の効果に関する検討 ○木村善太郎・佐藤美恵（宇都宮大）		
22A-6	素手による仮想物体の変形タスクにおける聴覚刺激の影響に関する検討 ○久米佑太・佐藤美恵（宇都宮大）		
22A-7	CG による実テレビ番組模倣の満足度評価 ○中村元気・鹿喰善明（明治大），林　正樹（ウプサラ大）		
22A-8	読解支援情報付ニュースの提案 ○後藤功雄・美野秀弥・熊野　正・田中英輝（NHK）		

会場B	12/13(水) 10:30-12:30	メディア工学:パターン認識(人・顔)［22B］	座長：田良島周平（NTT）
22B-1	監視映像における空間解像度の違いによる人物検出の精度評価 ○植村理紗・竹内　健・金井謙治・甲藤二郎（早大）		
22B-2	姿勢推定と把持物体認識を用いた歩きスマホ認識手法の検討 ○加藤君丸・渡辺　裕（早大）		
22B-3	姿勢推定技術を活用した人物の動作認識手法の精度評価 ○一原賢吾・竹内　健・金井謙治・甲藤二郎（早大）		
22B-4	口唇画像からの母音推定に基づく手話単語認識の高精度化 ○秋山強志・杉村大輔・浜本隆之（東京理科大）		
22B-5	顔形状とテクスチャ変化に表れる男性の加齢印象の定量的評価 ○海老沢賢汰・中村友昭・金子正秀（電通大）		
22B-6	似顔絵生成を目的とした顔画像からの鼻筋・小鼻・鼻孔形状の自動抽出 ○坂本裕貴・中村友昭・金子正秀（電通大）		
22B-7	顔方向に依存しない 3 次元顔認識 ○佐藤圭浩（東京都市大），間嶋　洋（コンピュートロン），包　躍（東京都市大）		
22B-8	マンガキャラクター顔画像クラスタリングの改良における一検討 ○柳澤秀彰・山下拓朗・渡辺　裕（早大）		

会場C	12/13(水) 10:30-12:00	センシング［22C］	座長：大竹　浩（NHK）
22C-1	固体撮像素子積層用結晶セレン膜の構造設計および特性評価 ○為村成亨・峰尾圭忠・本田悠葵・新井俊希・渡部俊久・宮川和典・難波正和・大竹　浩・久保田節（NHK）		
22C-2	透明電極で挟んだ青色用有機光導電膜の特性改善 ○高木友望・堀　洋祐・堺　俊克・清水貴央・大竹　浩・相原　聡（NHK）		
22C-3	4 板式 HDR カメラにおけるノイズ低減法 ○上野誠士郎（愛媛大），山下誉行（愛媛大/NHK），藤田欣裕（愛媛大）		
22C-4	*In vitro* FRET 計測に向けたオンチップ二色蛍光検出デバイス ○中元健太・W. S. Hee・春田牧人・野田俊彦・笹川清隆・徳田　崇・太田　淳（奈良先端大）		
22C-5	11:30-12:00 **［招待講演］**超高解像度 8K 映像技術の医療応用 ～ 8K 硬性内視鏡システムの実用化 ～ ○山下紘正（カイロス㈱ 取締役／(一社)メディカル・イメージング・コンソーシアム 理事） 我々は、2009 年より超高解像度 8K 映像技術の医療応用の試みを開始し、2013 年には世界初の 8K 硬性内視鏡による動物実験を行った。翌年には同じく世界初となる 8K 硬性内視鏡を用いたヒト臨床評価（胆のう摘出手術）、並びに 8K 顕微鏡によるヒト臨床評価（眼科顕微鏡手術）を行い、実用化に必要な知見を蓄積していった。2016 年には 8K 内視鏡の実用化を担うカイロス株式会社を発足し、それまでの 8K 内視鏡カメラの大幅な小型軽量化を果たした後、2017 年 9 月に、8K 硬性内視鏡システムの製品発表を行うに至った。本講演では、現在の最高レベルの映像技術を用いた 8K 硬性内視鏡の実用化に至った経緯と、これからのさらなる新しい試みについて述べてみたい。		

13日(水) お昼休み～

情報ギャラリー	12/13(水) 11:30-14:30	［特別企画2］2016年度各賞受賞企業によるデモ展示(公開)

2016年度に当学会が主宰する各賞を受賞された企業の方々のご協力を得て，デモ展示企画を行うこととしました．いま放送の現場で用いられている技術や，次世代の放送を予感できる技術，そして研究の最前線の技術について，それぞれデモを通してわかりやすく，親しみやすくご紹介いただきます．各企業でどんな研究開発が行われているかについて，企業の特色も垣間見ることができ，大学関係者，学生の皆さんにも貴重な機会となっています．

※参加無料．ただし，冬季大会のその他の講演や企画への参加には，聴講参加の手続きと参加費が必要です．

［出展デモ］

(1) マルチファイルプレーヤー（KAMELEON）の開発
栗山和久（関西テレビ），加藤三三男（オンテック），高津清誠（オンテック）

(2) アーカイブ統合型ニュース制作システム
～プロキシ・ハイレゾを自動置き換えする編集ワークフロー「プロキシ編集プラットフォーム」の開発～
小池　中（関西テレビ）

(3) ハイブリッドセンサーを用いたハンディカメラによるバーチャルスタジオの開発および実用化
加藤大一郎，武藤一利（NHKエンジニアリングシステム），三ツ峰秀樹（NHK放送技術研究所）

(4) 情報漏洩防止型SDメモリカード「読み出しロック機能 MamolicaTM(マモリカ)付き SDメモリカード」の開発
東芝&日本テレビ共同　情報漏洩防止型SDカード開発チーム

(5) FPU・SNG共用受信アンテナの開発
FPU・SNG共用受信アンテナ開発グループ（テレビ朝日）

(6) ゴルフ中継におけるショットデータCGシステムの開発
青木貴則（TBSテレビ）

(7) ノンリニア編集におけるリアルタイムテロップ機能”iTake”の開発
大松浩一郎（テレビ朝日）

(8) 1億3300万画素撮像素子及びフル解像度単板カメラシステムの開発
フルスペックSHV単板撮像システム研究グループ（ＮＨＫ）

(9) フルスペック8Kスーパーハイビジョン圧縮記録装置の開発
8Kスーパーハイビジョン記録装置開発グループ（ＮＨＫ）

13日(水) 3限目

会場A	12/13(水) 13:15-17:15	［特別企画3］大学発イノベーションを支える産学共創とベンチャーキャピタル(VC)

平成13年（2001年）の平沼プラン：大学発ベンチャー1000社創出構想
（http://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/sangakurenkei/hiranumaplan1.pdf）に端を発する大学発ベンチャーは、大学に潜在する研究成果に基づく「イノベーション創発の担い手」として期待されてきた。さらに、その基盤整備のために、平成24年度には、補正予算で国立4大学へ1000億円の出資を決定し、平成26年6月の閣議決定；日本再興戦略では“「今後10年間で、20件以上の『大学発新産業創出』を目指す」とした。平成27年から28年にかけて、国立4大学において投資事業有限責任組合が組成され、エレクトロニクス・ソフトウエア・マテリアル・バイオ等の分野における大学の研究成果を核としたベンチャー起業への投資が展開されている。また、当該投資事業有限責任組合組成と並行して、他の大学においても同様の取組が多く展開されるに至っている。
本シンポジウムでは、産学共創ならびに大学VCによる大学発ベンチャー支援の実際を鳥瞰し、日本の新産業創生に向けた取り組みと課題を討論したい。

司会：中村裕一郎 氏（目白大学経営学部 教授／アントレ研委員）

13:15～13:20　開会挨拶　　樺澤　哲（大阪大学・SBGV／アントレ研委員長）

13:20～14:15
S3-1　［基調講演］経済産業省のベンチャーイノベーションの促進策
石井芳明 氏（経済産業省 経済産業政策局 新規産業室 新規事業調整官）

政府では、成長戦略の一環として「産業の新陳代謝とベンチャーの加速」を掲げ、一連の施策を展開してきた。その結果、現状ではベンチャーを巡る環境は著しく改善し、大企業側もオープンイノベーションの取り組みを加速している。今後、IOT、AI、ビックデータなどの新技術が駆動する第四次産業革命が進展し、国際的なイノベーション競争が激化する中において、ベンチャーや大企業のオープンイノベーションの動きを更に加速するには何が必要か、政策を紹介しつつ会場の皆さんと考えたい。

14:15～14:55
S3-2　［招待講演１］　【東大】
　　坂本教晃 氏（㈱東京大学エッジキャピタル（UTEC）　プリンシパル）

産学連携 VC としての、東京大学エッジキャピタルの取組と技術系ベンチャーの俯瞰

14:55～15:35
S3-3　［招待講演２］　【早大】
　　瀧口　匡 氏（ウエルインベストメント㈱ 社長）

15:35～15:45　休憩

15:45～16:25
S3-4　［招待講演３］慶應義塾大学のベンチャーキャピタルについて
　　山岸広太郎 氏（㈱慶應イノベーション・イニシアティブ 社長）

慶應イノベーション・イニシアティブ(KII)は慶應義塾大学の研究成果を活用したベンチャー企業を育成し、研究成果の社会実装による社会貢献をミッションに 2015 年 12 月に設立されたベンチャーキャピタルである。2016 年 7 月に民間資金による 45 億円のファンドを設立し、すでに 10 社のベンチャー企業に投資を行っている。投資先は AI、ロボティクス、デジタルヘルス、再生医療など幅広く新産業として期待できる分野をカバーしている。本講演では KII の組織体制、投資方針、投資プロセス、投資先企業の紹介を行う。

16:25～17:05
S3-5　［招待講演４］大学発イノベーションを支える産学共創とベンチャーキャピタルの役割
　　北岡康夫 氏（大阪大学産学共創本部 副本部長・教授）

大阪大学では、キャンパス内で人材育成と挑戦的な研究を推進しながら、大学にある卓越した研究シーズを社会還元に直結させることを目指し、2006 年に「インダストリー・オン・キャンパス」をコンセプトに共同研究講座制度を導入し、産学連携を積極的に推進してきた。2017 年 4 月、「産学連携から産学共創(Co-creation)へ」をコンセプトに産学共創本部に改組し、社会（産官学民）との連携をより重視し、新たなスタートを切った。また、平成 24 年度の補正予算において、4 つの国立大学（東京大学、京都大学、大阪大学、東北大学）に対して 1000 億円を出資され、官民イノベーションファンド事業を始めた。本講演においては、大阪大学の産学共創活動とベンチャー起業支援の新しい取組についてお話しする。

17:05～17:15　講演総括＆閉会挨拶　　中村裕一郎 氏（目白大学）

会場 B	12/13(水) **13:30-18:00**	**［特別企画4］AI 研究の最先端とその未来**

人工知能/AI は、これからの社会を支える重要技術として世界的に注目を集めている。日本国内でも、様々な大学/研究機関において、革新的な人工知能技術の開発を目指し日々研究が進められている。本シンポジウムでは、AI 研究の第一線でご活躍の 7 名の研究者から、各領域における研究の最前線について講演をいただく。本シンポジウムを通じて、AI 研究の最先端を参加者全員で共有するとともに、その未来について共に模索したい。

13:30～13:35　オープニング，趣旨説明　田良島周平（NTT）

司会：田川憲男（首都大学東京）

13:35～14:10
S4-1　Deep Learning による視覚×言語融合の最前線（予稿なし）
　　牛久祥孝 氏（東京大学）

Deep Learning の恩恵は、音声認識や画像認識、機械翻訳といった種々のタスクの精緻化だけではない。それぞれのタスクにおける手法が畳込みニューラルネットワ ークや再帰型ニューラルネットワークによって表されるようになり、異分野の研究 者にとっても理解しやすくなった。結果として、かつては独立に扱われていたよう なモダリティのデータを融合し、理解・生成するような研究が大きな広がりを見せ つつある。
本講演では、画像や動画といった視覚的なデータと、自然言語とを融合した挑戦的かつ萌芽的なタスクについて、歴史的な経緯も踏まえながら紹介する。

14:10～14:45
S4-2　科学技術論文の自動理解による知識獲得（予稿なし）
　　進藤裕之 氏（奈良先端科学技術大学院大学/理化学研究所 AIP）

科学技術の進展に伴い，膨大な知識や情報が生み出されています．これらの知識は，各分野独自のデータベースや，日々発行される科学技術論文の中に蓄積されていますが，データベースの構築や論文の内容理解には膨大な時間と手間を要します．本講演では，人工知能技術によって科学技術論文を自動読解し，専門分野のデータベースの完備化や知識の体系化を目指す取り組みについて紹介します．

14:45～15:20
S4-3　深層学習が切り拓く新しいメディア表現 ～ 超解像から動画生成まで ～
齋藤真樹 氏（プリファードネットワークス）

深層学習のアプローチは，既存の問題を効率的に解けるだけでなく，これまで実現が難しいと思われていた動画生成といった無教師学習の問題や，別の分野，例えば，自動彩色やテクスチャ合成といった応用分野に対しても適用できることが複数報告されている．本稿では，これまでの問題に対する，深層学習を利用した試みについて説明した後に，深層学習が切り開いたいくつかの新しい応用について紹介する．

15:20～15:55
S4-4　Computational Design: 計算機科学的アプローチに基づくデザイン支援技術
小山裕己 氏（産業技術総合研究所）

本講演では，私が取り組んでいる「コンピュテーショナルデザイン」（＝計算機科学的な方法論に基づいて人間の行うデザイン活動をモデル化し，拡張し，支援する新しいデザインのパラダイム）に関する研究を紹介する．デザイン活動を数学的な最適化計算として解釈することで，例えばモノを置くのに便利なホルダーを全自動でデザインしたり，奇妙な形の紙飛行機デザインでもよく飛ぶように賢く調整したり，さらには人間を計算資源として利用する「群衆計算」によって審美的に好ましいと感じられるデザインを半自動的に探索したり，うまく人間の知覚をごまかすことができる VR 用手持ちコントローラをデザインしたりと，様々なことが可能になる．

15:55～16:05　途中休憩

司会：田良島周平（NTT）

16:05～16:40
S4-5　富士通の人工知能 Zinrai の紹介と理研 AIP-富士通連携センターの取り組み
岩倉友哉 氏（富士通研究所）

攻撃を実施しようとする者や攻撃手法の開発は今後も残念ながら収まることはないと思っています。攻撃手法そのものの把握や対応に加え攻撃者がなぜ攻撃を行うのか、「攻撃の意図」を可能な限り把握する。さらに様々なセキュリティ機関と攻撃そのものだけでなく、つかんだ予兆など様々な情報共有することにより、対応速度を上げる必要があります。情報が相互に交換されている組織やグループは、既に国内に存在していますが、其の殆どは個人対個人で醸成された信頼感をベースとしたものです。個人とコミッティとの信頼感をどのように組織対組織に広げていけるか、今後のサイバー攻撃への対応において決定的に重要になると考えます。

16:40～17:15
S4-6　集団スポーツの動きの情報処理とそのモデル化
藤井慶輔 氏（理化学研究所 AIP）

ヒトは他者との競争や協力を通じて、さまざまな問題を解決することができる。
しかし、この社会的、あるいは身体的な相互作用に関しては、行動データからその特徴を抽出したり生成したりすることが難しい。
集団スポーツは計測可能だが複雑な社会的・身体的相互作用を示すため、新たなモデリングや情報処理手法が必要な挑戦的題材である。
本発表ではまず局所的な二者間の攻防を題材に、順モデル的なアプローチが分解された階層内の各パラメータの最適化という観点では困難であることと、それらを部分的に解決した例を示す。次に二集団間の攻防について、データ駆動の逆モデリングが階層性や非線形性の観点で困難であることと、それらを部分的に解決した例を示す。

17:15～17:50
S4-7　ステレオ・オプティカルフローの現状（予稿なし）
谷合竜典 氏（理化学研究所 AIP）

本講演では、コンピュータビジョンにおける一分野として密対応点推定問題について解説します。密対応点推定問題は、ステレオ・マッチングなどの３次元形状推定や、オプティカル・フローなどの動画モーション解析等を幅広く包括する問題で、様々な応用で必要となる基本的技術になっています。ここではその基本的な設定や性質、難しさ、近年の研究動向について紹介します。とくに最近は深層学習によるアプローチの登場が目立つ分野ですが、深層学習を用いるアプローチと、そうでないアプローチの両方を紹介する予定です。

17:50～18:00　全体を通してのディスカッション

会場C	12/13(水) **13:00-14:15**	**ヒューマンインフォメーション3［23C］**	座長：磯貝　愛（NTT）
23C-1	圧力センサを取り付けたハンモックを入力装置として用いた VR システムのスリルに関する改良 ○柳岡祐太・大倉典子（芝浦工大）		
23C-2	モバイル端末での視聴における超高精細映像の好ましい表示方法の評価 ○松尾信秀（電通大），小峯一晃（NHK）		
23C-3	画像の解像度と大きさを変えたときの注視位置の分析 ○小山玲子・中川理子・菅沼美由起・望月信哉・山田光穂（東海大）		
23C-4	サラウンド音響効果の客観的評価の検討 ○小林康祥・望月信哉・菅沼美由起・山田光穂（東海大）		
23C-5	A model based on interocular velocity difference －to estimate motion direction in depth－ ○WU WEI・Kazumichi Matsumiya・Ichiro Kuriki・Satoshi Shioiri（Tohoku Univ.）		

13日(水) 4限目

会場A	12/13(水) **13:15-17:15**	**［特別企画3］大学発イノベーションを支える産学共創とベンチャーキャピタル(VC)**
詳細は p.9 をご覧ください. .		

会場B	12/13(水) **13:30-18:00**	**［特別企画4］AI 研究の最先端とその未来**
詳細は p.10 をご覧ください. .		

会場C	12/13(水) **14:30-16:30**	**ストレージ＆情報ディスプレイ［24C］**	座長：薄井武順（NHK）
24C-1	正規乱数を仮定した場合の理論とシミュレーションに関する一検討 ○森實　響・山口翔大・栗原義武（新居浜高専）		
24C-2	ホログラムメモリーにおける畳み込みニューラルネットワークの効率的な学習手法の一検討 ○片野祐太郎・室井哲彦・木下延博・石井紀彦（NHK）		
24C-3	歩行者向けナビゲーションに用いる提示パターンの検討 ○古海尚人・堀越 力（湘南工科大）		
24C-4	EO ポリマーを用いた光フェーズドアレイの制御特性 ○平野芳邦・本山　靖・町田賢司（NHK），田中　克（NHK-ES），山田俊樹・大友　明（情通機構），菊池　宏（NHK）		
24C-5	時間アパーチャー制御における有機 EL の寿命評価 ○岡田拓也・薄井武順・藤崎好英（NHK）		
24C-6	RGB レーザーバックライト ○菅　彰信・前田紗希・新倉栄二（三菱電機）		
24C-7	シリンドリカルレンズを用いた白色 LED バックライトの開発 ○前田紗希・澤中智彦・新倉栄二（三菱電機）		
24C-8	サブフレーム生成と 240Hz 駆動による DMD 素子を用いた高輝度 8K Laser Projector の開発 ○佐藤　仁・小野浩司・村上　晋・海老原豊（アストロデザイン），王　博（Delta Electronics）		

13日(水) 5限目

会場A	12/13(水) **13:15-17:15**	**［特別企画3］大学発イノベーションを支える産学共創とベンチャーキャピタル(VC)**
詳細は p.9 をご覧ください. .		

会場B	12/13(水) **13:30-18:00**	**［特別企画4］AI 研究の最先端とその未来**
詳細は p.10 をご覧ください. .		

会場C	12/13(水) **16:45-18:15**	**スポーツ情報処理［25C］**	渡辺　裕（早大）
	［Opening Remarks］RWC2019 へ向けた映像情報処理 ○角田　貢（日体大/スポーツ情報処理時限研究委員会 幹事） sip（スポーツ情報処理時限研究委員会）は現在，特別セッションを設けずに，スポーツ情報処理（一般）とし，特定スポーツのテーマによらない，一般の人の動きも含めた映像へ情報を活用する技術に関して机上に加えて実証，実践研究も含めた発表の場となる方針で活動中である．現在この春から（ite 夏の大会へ向けて）活動継続中のテーマであったラグビーについて，競技と映像技術の両面から最先端となる招待講演の機会を得た．（含む招待者 1 の紹介）		
25C-1	16:45-17:05 **［招待講演 1］**RWC2019 へ向けた課題と映像情報処理への期待（予稿なし） ○田沼広之（RWC2019 アンバサダー） RWC2019 へ向けた課題と映像情報処理への期待について，ラグビーの普及（映像の活用）などを含めた幅広い観点から，映像情報処理へ期待について発表する．		
25C-2	17:05-17:25 **［招待講演 2］**画像認識技術を活用したラグビー映像解析システム～アナリストによるプレー分析作業の支援とチーム強化～ ○青木義満・市毛里奈（慶大），小林大祐・中州俊信・大内一成（東芝） 単眼ビデオカメラを用いて撮影したラグビーの試合映像を対象に，Deep Learning により検出した選手，ボールの位置を二次元フィールド上にマッピング，プレー分析を行うシステムについて紹介する．		
25C-3	選手到達可能領域に基づくラグビートライルート算出ツール ○浅尾洸斗・氏原三四朗・中田洋平（明治大）		
25C-4	バスケットボールにおける選手・ボール位置情報の 3 次元可視化ツール ○大川順也・中田洋平（明治大）		
25C-5	関節位置情報を用いた自転車選手識別手法に関する一検討 ○高木政徳・石川孝明・渡辺　裕（早大）		
	［Closing Remarks］最終的見解および今後へ向けた総括 ○渡辺　裕（早大）		

映像情報メディア学会
２０１７年冬季大会実行委員会構成

委員長	三谷　公二	副会長	（ＮＨＫ）
幹　事	柳原　広昌	調査担当理事	（ＫＤＤＩ総合研）
〃	髙村　誠之	総務担当理事	（ＮＴＴ）
〃	高木　康博	企画担当理事	（東京農工大）
〃	菅　真紀子	会計担当理事・大会会計担当主査	（ソニー）
〃	三科　智之	編集担当理事	（ＮＨＫ）
〃	亀山　　渉	会場世話役／技術委員会幹事長	（早大）
委　員	大竹　　浩	情報センシング研究委員会副委員長	（ＮＨＫ）
〃	薄井　武順	情報ディスプレイ研究委員会幹事補佐	（ＮＨＫ）
〃	武者　敦史	マルチメディアストレージ研究委員会幹事	（富士フイルム）
〃	大西　正芳	放送技術研究委員会委員：放送方式	（ＮＨＫ）
〃	渡辺　　滋	放送技術研究委員会委員：無線光	（日本電業工作）
〃	甲斐　　創	放送技術研究委員会委員：放送現業	（日本テレビ）
〃	磯貝　　愛	ヒューマンインフォメーション研究委員会幹事	（ＮＴＴ）
〃	田良島周平	メディア工学研究委員会委員	（ＮＴＴ）
〃	塩寺太一郎	メディア工学研究委員会委員	（東　芝）
〃	盛岡　寛史	映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会幹事	（ＮＨＫ）
〃	石綿　　宏	アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会幹事	（エーエスエムエル ジャパン）
〃	掛谷　英紀	立体映像技術研究委員会幹事	（筑波大）
〃	北原　　格	スポーツ情報処理時限研究委員会幹事	（筑波大）
〃	福井　啓允	スポーツ情報処理時限研究委員会幹事	（ＫＤＤＩ総合研）

～ メ　モ ～

【西早稲田キャンパス 63 号館　無線 LAN】

SSID（A）　　waseda-event005

セキュリティーキー（B）　　KgGdK76H

接続可能期間　12 月 12 日，13 日